

群馬県議会だより

第92号

題字は、前橋育英高等学校3年生 書道部 福島 萌香さんの書道作品です。

発行●群馬県議会 編集●県議会図書広報委員会
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1 ☎027-226-4131(政策広報課)

第1回定例会開催

8,187億600万円の当初予算案などを可決



沼田公園(沼田市)

4月上旬以降、公園のシンボルでもある御殿桜をはじめ、公園全体を取り囲む桜約210本が咲き、春の訪れを感じさせてくれます。

令和4年第1回臨時会のあらまし

◇第1回臨時会は、1月21日に開催されました。

【議案】

知事から、まん延防止等重点措置の適用に伴う感染症対策営業時間短縮要請協力金に係る**157億2,595万円**を増額する**一般会計補正予算案**が提出されました。

【質疑】

3人の議員による質疑が行われました。

【常任委員会】

関係する常任委員会が開催され、付託議案について審査を行いました。

【議決】

常任委員会の審査結果について委員長から報告された後、議案の採決が行われ、知事から提出された**1議案**は**可決**されました。

令和4年第1回定例会のあらまし

◇第1回定例会は、2月16日から3月18日までの31日間にわたって開催されました。

【議案】

2月16日には、知事から「新型コロナ克服+新展開実現予算～困難を乗り越えて、飛躍を目指す!!～」と銘打った**総額8,187億600万円の令和4年度一般会計当初予算案**をはじめ、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現条例など、**85議案**が提出され、3月8日には人事議案**1件**が提出されました。

議会からは、委員会提出議案として意見書案**1件**、決議案**1件**、議員提出議案として決議案**1件**の計**3議案**が発議されました。

【質疑及び一般質問】

16人の議員による質疑及び一般質問のほか、決議案について議員**1人**が質疑を行いました。

【常任委員会・特別委員会】

各常任委員会・各特別委員会が開催され、付託議案や付議事件、所管に関する事項などについて審査・調査しました。また、各特別委員会で付議事件に係る提言をまとめました。

【議決】

常任委員会・特別委員会などの審査結果などについて、各委員長から報告が行われ、議案及び請願について討論と採決が行われました。

知事から提出された**86議案**は、全て**可決・承認・決定・同意**され、議会が発議した**3議案**も**可決**されました。また、**1件**の請願が**採択**されました。

請願・陳情の手引きはこちら



◇可決された主な議案

- 令和4年度一般会計予算
- 2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現条例
災害に強く、持続可能な社会の構築に関する事項を定めようとするもの
- 群馬県子ども活躍応援基金条例
県への寄附金を原資に、子どもの活躍を応援するための各種事業に活用するための基金を設置しようとするもの

◇可決された意見書

- 養豚場を豚熱から守るための意見書

◇可決された決議

- ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する決議
- 事前協議規程における廃棄物最終処分場の1kmルールの見直しを求める決議

質疑及び一般質問

令和4年2月22日の各党(会)派代表による代表質問、24日、28日、3月1日の質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。

群馬県議会インターネット中継
「令和4年第1回定例会」



○質疑及び一般質問の中から一部を掲載します。

2月22日(火)



◎福祉医療制度の実施に伴う国庫負担金等削減措置(福祉ペナルティ※)について
自由民主党 星名 建市

Q 子ども医療費無料化に対する福祉ペナルティは、地方自治体における取組を妨げるものであり、廃止すべきと考えますが、県としてどのような取組を行ってきたのでしょうか。

A 地方自治体による子育て世帯などを支援する取組を阻害する措置と考えており、直ちに廃止するよう国に要請を続けてまいりました。平成30年度からは未就学児に係る措置は廃止されましたが、それ以外の措置は依然として継続されているため、引き続き、全ての削減措置を廃止するよう国に強く要請してまいります。



◎荒廃農地の森林化への取組について
自由民主党 岩井 均

Q 荒廃農地のうち、再生利用が困難と考えられる農地については、早生樹を活用した森林化も一つの手段として有効と考えますが、県の早生樹の取組について伺います。

A 早生樹は植林から収穫までの期間が短いこと等から収益性向上が期待されています。現在、林業試験場で本県の自然条件における生育状況の調査研究、林業事業者と連携した低コスト施業の実証等を進めています。今後とも、本県に適した早生樹の選定や育成方法などの調査研究を進め、樹種の特長等を踏まえた利活用方法について検討してまいります。



早生樹(コウヨウザン)



◎リゾート推進について
リベラル群馬 後藤 克己

Q キャンペーン等に依存せず、持続的に稼げる観光地づくりのために、観光地の特色あるコンテンツを活かした商品化と、ターゲットを絞った誘客が必要と考えますが、どのように進めていくのか伺います。

A 本県の最大のキラコンテンツである温泉をはじめ、豊かな農畜産物や自然、アウトドアなどを組み合わせたサービスを提供し、都会の人々などをターゲットに、忙しい日常から離れ、疲れた心や体をリラックスさせ、ゆっくりとした時間を過ごしながら本来の自分を取り戻す「リゾート」を新たな旅のスタイルとして進めてまいります。



◎学校施設のバリアフリー化について
令明 金沢 充隆

Q 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律(バリアフリー法)の改正等を踏まえ、本県においても学校施設のバリアフリー化を一層推進していくべきと考えますが、現状と今後の取組について伺います。

A 公立小中学校では、車椅子使用者用トイレ設置は56%、建物内の段差解消は42%、エレベーター設置は31%の学校で整備済みです。県立高校では、それぞれ78%、40%、45%で整備済み、特別支援学校では全ての学校で整備済みとなっています。県立学校については、長寿命化改修の機会を捉えて、今後とも計画的にバリアフリー化を進めてまいります。

2月24日(木)



◎子どもの居場所づくりについて
自由民主党 松本 基志

Q 今後、県としてどのような支援に取り組んでいく予定か伺います。

A 令和4年度は、子ども食堂や学習支援・体験活動の場などの開設費用を補助する「子どもの居場所づくり応援事業補助金」の内容を拡充し、新型コロナ対策やオンライン対応に係る費用も補助対象に加える予定です。また、団体間のネットワークの設立促進による各地域での連携強化や、子ども食堂のさらなる理解促進・利用拡大にも取り組んでまいります。今後も、市町村や関係機関等と連携・協力しながら、積極的に支援を行ってまいります。



◎福祉職員の離職率及び人材育成について
リベラル群馬 鈴木 敦子

Q 児童虐待の相談件数が年々増加する中、児童福祉の職場には高いスキルが必要とされます。人材育成の強化が必要と考えますが、福祉職員の離職率の現状や今後の人材育成について伺います。

A 平成25年度からこれまでに採用した40名の福祉職員のうち、7名が離職しており、県職員の中でも離職率の高い職種であると認識しています。今後は、ワークライフバランスの取れた働き方ができるよう検討するほか、経験年数に応じた研修体制の整備などにも取り組み、高い専門性とやりがいを持って仕事を続けられるよう、計画的な人員配置と人材育成に努めてまいります。



◎啄木鳥橋の今後の整備方針について
自由民主党 狩野 浩志

Q 県立赤城公園内の啄木鳥橋は老朽化により通行止めとなっていますが、今後の整備方針について伺います。

A 啄木鳥橋は赤城大沼のシンボルであり、絶好のビュースポットとして多くの方に親しまれています。設置から約50年経過し、老朽化で危険な状態のため、平成31年2月から通行止めをしています。県では赤城大沼のシンボルが通行できないことによる損失等を考慮し、橋桁の架替工事を実施することとしました。現在は厳冬期で工事が困難なため、春になってから着手する予定です。



啄木鳥橋



◎伊香保リンクの今後の運営について
令明 金子 渡

Q 伊香保リンクは、令和2年度に「県有施設のあり方見直し」の対象となりましたが、今後の運営について伺います。

A 県有施設のあり方見直しの最終報告で、今後の運営には収支改善が必須となりました。そのため、収入増加策としてリンクの使用料改定や夏場の有効活用、ネーミングライツの導入など、また、支出削減策として屋外リンクの開場期間の短縮や電気料金を含む経費の見直しなどを予定しています。県としては、収支改善策にしっかりと取り組み、伊香保リンクの効率的な運営に努めてまいります。

2月28日(月)



◎スクールカウンセラーについて
自由民主党 大林 裕子

Q 県内全ての公立学校に配置されているスクールカウンセラーを有効活用するための工夫と、相談したいときに速やかに相談できる体制整備について伺います。

A 小中学校で同じスクールカウンセラーを配置し、継続的な支援を行えるようにするなど、工夫した取組を行っています。スクールカウンセラーは、児童生徒や保護者へのカウンセリングに加え、教職員への助言も積極的に行っており、学校にとって欠くことのできない存在です。効果的に配置することで、速やかに相談に対応できるよう努力してまいります。



◎居場所としての学校について
日本共産党 伊藤 祐司

Q 過度な学力競争、異質な者を排除する同調圧力、過干渉な管理主義など、学校をストレスフルな場所としている現状を正さなければ始動人は育たないのではないのでしょうか。

A 学校において、過度な学力競争をあおる指導や、皆同じでないと違和感を覚えるような学級経営は避けるべきです。学校では、児童生徒がストレスを抱え込まず、安心して生活できる居場所づくりに努めています。互いのありのままを受け入れながら共に成長できる学校づくりが行われるよう、市町村教育委員会と連携して支援してまいります。



◎館林インターチェンジ進入道路の課題と今後のあり方について
自由民主党 泉沢 信哉

Q 国道354号から館林インターへ進入する車両による渋滞の解消と今後の館林邑楽地域の発展のために、館林インター進入道路の改良が必要と考えますが、県の考えを伺います。

A 渋滞対策については、既に右折矢印信号の新設などにより、一定の改善効果が見られました。現在は館林インター前交差点等の交通流動や事故の発生状況、渋滞の原因を正確に把握するための調査を実施しています。今後、将来の交通需要の変化や実施中の調査結果を基に、館林インター進入道路の改良の必要性の有無を含め、円滑なインターアクセスに向けた対策を総合的に検討してまいります。



◎ぐんまちゃんアニメについて
新時代 矢野 英司

Q ぐんまちゃんのアニメ化の目的と知事の思いについて伺います。

A 4月からNHK前橋放送局で全13話が再放送されますが、アニメの内容を高く評価していただいた結果だと考えています。アニメ化によってぐんまちゃんの認知度が上がることにより、群馬県の農畜産物の販売や観光客の増加、県民のプライド増進などに繋がることを目指しています。経済効果が出てくるまでにはある程度時間がかかりますが、くまモンに追いつくこともできると考えています。良い続編を作りますので、県議にも応援してもらいたい。



アニメぐんまちゃん

※福祉ペナルティ…窓口負担を軽減する福祉医療制度は医療費を増加させるものとして、国が地方自治体に対する国民健康保険の負担金等を削減する措置。

3月1日(火)



◎企業版ふるさと納税について

自由民主党 高井 俊一郎

Q 企業版ふるさと納税を官民共創の一つとして活用することについて、知事の所見を伺います。また、企業版ふるさと納税の推進に当たっては、知事によるトップセールスの活用も有効と考えますが、いかがでしょうか。

A 県では、産学官民が多様な分野で連携し地域課題に取り組むことを推進しており、企業版ふるさと納税はこれに合致する制度です。また、現在トップセールスを積極的に進めているところですが、民間資金の活用は重要であるため、こういった機会を生かし、当制度を紹介していきたいと考えています。



◎県庁組織の在り方について

如水会 入内島 道隆

Q 事象全体を俯瞰的に捉えなければ解決が難しい課題が増えています。縦割りの行政組織に横串をどう刺すかが重要ですが、知事の目指す県庁組織の在り方についての見解を伺います。

A これまでも県庁の組織改革を行ってまいりましたが、前例にとらわれない組織、部署に横串を刺した仕事ができる組織、職員が高いモラルを持って働ける組織、自分の意見が言いやすいフラットで風通しの良い組織にしたいと考えています。こうした考えに基づき、必要な組織改革を進めてまいります。



◎人口減少対策としての移住・定住促進の取組について

友信会 追川 徳信

Q 人口減少対策は、県において大きな課題であり、その対応策として、移住・定住促進が重要であると考えますが、県の取組について伺います。

A コロナ禍による地方分散化の流れは、県内へ人を呼び込むチャンスであると考えています。従来から取り組んでいる移住施策に加え、群馬に興味を持ち、関わりを持つ「関係人口」を増やす取組や東京圏に勤務する人を対象とした「転職なき移住」を推進しています。新しい人の流れに対応したさまざまな取組を通じて、市町村と連携し、より多くの人を本県に呼び込んでまいります。



◎ぐんまスーパーキッズプロジェクトについて

自由民主党 星野 寛

Q 事業が始まり11年目となりますが、成果について伺います。

A スーパーキッズプロジェクトは、競技人口が少なく、地域ごとでは育成が難しい個人競技種目を中心に、運動能力が発達する小学4年生から6年生までの3年間、専門の指導者の下で育成強化するプログラムであり、今年度は、13競技種目263名で実施しています。これまでの卒業生は458名にのぼり、出身選手は全国・世界で活躍しています。今後も県スポーツ協会や各競技団と連携し、ジュニアの発掘・育成強化に取り組んでまいります。



スキー競技の育成

次の県議会議員選挙の定数・区割りは現行どおりとなりました。

令和4年2月9日、群馬県議会議員選挙区等検討委員会は、議会運営委員会から諮問された、令和5年4月執行予定の県議会議員選挙に適用する「選挙区及び各選挙区において選挙すべき議員の定数等」について、**群馬県議会議員の定数は現行と同じ50人とし、各選挙区における市町村の組合せや各選挙区において選挙すべき議員の数も現行どおりとする旨の答申を行いました。**

人口減少や都市部と過疎地域との人口格差が進行していく中、多様な住民の声を県政に反映させていく議員の役割が大きくなっていることや、各選挙区における市町村の組合せについては、地勢や交通等の実情、地域住民の一体感、議員の地域代表性と市町村の意見の反映のしやすさなどを総合的に考慮する必要があることなど、さまざまな議論を重ねた結論です。

また、県全体の人口減少と都市部への人口集中・山間部等の人口減少が続くと予想されることから、地域住民の声を県政に届け、二元代表制としての議会の役割をしっかりと果たしていくため、幅広く検討を続けていくこととなりました。

答申を受けた議会運営委員会は、この答申の取扱いについて協議し、同日、答申のとおりとすることを決定しました。

答申書へのリンクはこちら▶



活動紹介 ～ 常任委員会 ～

新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、オンラインを活用した調査を実施した2つの委員会の活動についてご紹介します。



委員会活動
令和3年5月24日～

■ 総務企画常任委員会

委員長：穂積昌信 副委員長：亀山貴史
委員：久保田順一郎、伊藤祐司、後藤克己、岸善一郎、安孫子哲、斉藤優、大林裕子

令和4年1月25日(火) 《デンマーク大使館》

[調査目的 デジタル技術の利活用の推進]

国連が2年に1度実施している電子政府調査において、2018年、2020年と連続で最も電子政府が進んでいる国に選ばれているデンマークの取組について調査を行いました。



■ 文教警察常任委員会

委員長：伊藤清 副委員長：神田和生
委員：中沢丈一、橋爪洋介、あべともよ、金井康夫、加賀谷富士子、鈴木敦子

令和4年1月26日(水) 《能登町役場(石川県鳳珠郡能登町)》

[調査目的 教育体制の確立]

人口流出により児童生徒数の減少が続いていた能登町は、地元の県立能登高校と行政組織の壁を越えて協働しています。教育政策の枠に留まらず、移住定住促進や地方創生の政策としても取り組んでいる「能登高校魅力化プロジェクト」や、地域を活かした特色ある授業等について、教育体制の確立の観点から調査を行いました。



活動紹介 ～ 特別委員会 ～

4つの特別委員会から提言を提出しました。

▶新型コロナウイルス感染症対策特別委員会からの提言

「新型コロナウイルス感染症対策に関する提言」として、警戒レベルや緊急事態宣言に関すること、検査・医療体制に関すること、県民生活への影響に関すること、産業への影響に関すること、教育への影響に関することなど、新型コロナウイルス感染症対策の取組に当たって留意すべき20項目について提言しました。



委員会から
知事への提言

▶デジタルトランスフォーメーションに関する特別委員会からの提言

「デジタルトランスフォーメーションの推進に関する提言」として、デジタル社会の形成は社会的な課題に対応するため極めて重要であり、県民がデジタル社会の利便性を実感できる取組が進められているが、デジタルに不慣れな方への配慮や個人情報の保護、情報格差の解消等も重要であるとの観点から、行政関係、県民生活関係、産業関係、教育関係の4分野14項目にわたる取組について提言しました。

▶脱炭素社会・新エネルギーに関する特別委員会からの提言

「脱炭素社会・新エネルギーに関する提言」として、家庭や事業者等に対する県の取組について、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」実現条例について、再生可能エネルギーの導入・促進等について、プラスチックごみの削減等について、食品ロスについて、県の推進体制についてなど、本県における脱炭素社会の実現及び新エネルギーの推進に当たって配慮すべき21項目について提言しました。

▶地方創生・ブランドに関する特別委員会からの提言

「地方創生・ブランドに関する提言」として、協働・共創を進めるための取組、新コンテンツ創出、社会人eスポーツリーグ大会、アーバンスポーツ、プロスポーツによる地域活性化、本県で開催される国民スポーツ大会に向けた選手の育成強化、温泉文化、ぐんまちゃんアニメ、蚕糸業の振興、農畜産物や地酒のPR、群馬交響楽団改革プラン、公共交通サービスの確保など、地域の一人一人が地方創生の主役となり、全国に誇れる群馬県を実現するため、16項目について提言しました。

若者の政治への関心を高める取組

議員に密着ゼミナール ～もっと知りたい政治のハナシ～



令和3年12月23日に、県議会議員が大学に出向いて学生と意見交換を行う「議員に密着ゼミナール～もっと知りたい政治のハナシ～」を開催しました。高崎経済大学の協力をいただき、地域政策学部「現代政治論」の授業に3人の議員が参加し、「群馬県の地域課題について」をテーマに学生134人と熱心に意見を交わしました。

ぐんまシチズンシップ・アカデミー



令和4年2月24日と28日に、県内の大学生・短大生が議員と意見交換を行う「ぐんまシチズンシップ・アカデミー」が、オンラインにより開催されました。

県内の4校から延べ28人の学生が参加し、議員の一般質問をテレビやインターネットで視聴した後、オンラインで意見交換を行いました。参加した10人の議員も今年度から導入したタブレット端末を活用し、活発な意見交換を行いました。

参加大学等（順不同）
共愛学園前橋国際大学
群馬医療福祉大学
高崎経済大学
新島学園短期大学

▶ 県議会メッセージ動画の公開



動画は、
県の公式YouTubeチャンネル
「tsulunos」からご覧ください。



若者と女性に向けた動画『届け！県議会メッセージ「若者、そして女性の皆さんへ！」』を公開しました。

県議会が実施している高校生向けの「GACHi 高校生×県議会議員」の取組や2人の若手議員からのメッセージを収録しています。是非ご覧ください。

トピックス Topics

◎ 「みやま文庫」のご紹介



みやま文庫の写真

『みやま文庫』をご存じですか？

本県の郷土史である「みやま文庫」は、郷土に関する研究や著作を平易に編集し、県内の文化振興に役立てることを目的に、年間4冊を刊行しています。県議会は、設立当初から趣旨に賛同し、図書広報委員会全員が理事を務めるほか、議員全員が購読会員となっています。3月には、244巻目となる『群馬の現代染織』と245巻目となる『上州の飛脚』の2冊が刊行されました。



年4冊の新刊が配本される「購読会員」は、右のQRコードからお申し込みください。

議員異動のお知らせ

岩井 均 議員 自由民主党 → 辞職（令和4年3月31日付）

県議会では、**弔電**を自粛する申し合わせを行っています。

◎ 県議会だよりはスマートフォン等でご覧になれます。



◎ 過去の県議会だよりはこちらからご覧ください。



◎ 「県議会だより」は年4回発行しています。次号は、令和4年7月3日(日)発行予定です。

◎ 「県議会だより」についてのご意見を政策広報課までお寄せください。

☎ 027-897-2891 FAX 027-221-8201

✉ giseisaku@pref.gunma.lg.jp

令和4年第2回定例会のご案内

会期は5月24日から6月15日の予定です

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、テレビやインターネットによる中継をご覧ください。

◎ 本会議・委員会開催日程 ※会期は予定ですので、変更される場合もあります。

月日	曜日	議事予定	月日	曜日	議事予定
5月24日	火	本会議 (開会・委員の選任・提案説明)	6月7日	火	常任委員会
30日	月	本会議 (質疑及び一般質問)	8日	水	特別委員会
31日	火		10日	金	
6月2日	木		15日	水	本会議 (委員長報告・議決・閉会)

(開会はおおむね午前10時からです)

◎ 県議会中継

テレビ

★群馬テレビ 午前10時～〈生中継〉

◆本会議（質疑及び一般質問）をご覧ください。

スマートフォンやタブレットはこちらからご覧ください

インターネット

★県議会ホームページ「議会中継」〈生中継〉〈録画〉

◆本会議の全日程をご覧ください。



編集後記

【図書広報委員長 橋爪 洋介】

図書広報委員会は、県民の皆さまに県議会の役割や活動を知っていただくため、「群馬県議会だより」を年4回作成しています。コロナ禍の中で、議会から皆さまにお伝えしたいことが増えましたが、限られた紙面の中で分かりやすい記事になるよう努めています。

今後も、より一層「開かれた議会」を目指し、積極的に広報に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。



図書広報委員会

委員長：橋爪洋介 副委員長：斉藤優
委員：あべともよ、酒井宏明、薬丸潔、本郷高明、相沢崇文、神田和生、亀山貴史、秋山健太郎

県議会ホームページ

群馬県議会

検索

県議会の最新情報は公式SNSでも発信しています。

